

平成 24 年度春日部市包括的連携推進事業

粕壁宿の歴史を体感できる
デジタルコンテンツの制作および活用法の研究
報告書

平成 25 年 3 月

日本工業大学 工学部情報工学科

石原研究室

1. 研究の目的・内容

日本工業大学情報工学科石原研究室では、平成 24 年度の春日部市との包括的連携推進事業により、粕壁宿の歴史を体感できるデジタルコンテンツの制作とその活用法の研究を行った。

春日部の歴史は深く、江戸時代には日光街道の宿場町として栄えたが、残念ながら今日にその面影はほとんどみられない。かすかべ大通りには大型商業施設や高層マンションがたち、東京のベッドタウンの典型となってしまうて久しい。そこで、今後のまちづくりの一環として江戸時代の粕壁宿と現代を照らし合わせ、宿場町から変貌を遂げてきた春日部市を再発見することはできないか。「日常の春日部」に「非日常の粕壁」を見だし、日々の生活こそが連綿と続く歴史の瞬間々々であることを実感できれば、東京の一郊外都市ではない春日部の魅力に人々は気がつくだろう。丹念に街を歩き、当時の面影をまだ見ぬ過去の記憶のタグとして活用すれば、自らの生活の場である春日部に愛着がわくだけでなく、観光の推進にも繋がるのが期待できる。

旧日光街道付近の面影を今に残すものとして、以下のものがあげられる。

	場所	テーマ・内容	現状	備考
1	新町橋	日光道中にかかる橋	コンクリート橋	数次の架け替え
2	上喜蔵河岸	船荷の積み降ろし場所	粕壁 3-10-45「島源」裏に石積	唯一の江戸遺構
3	本陣 1 (関根助右衛門家)	殿様の泊まる所	粕壁東 2-1-33 「ポンテザール」付近	
4	本陣 2 (見川家・名主)			位置推定
5	本陣 3 (小沢栄蔵家)	粕壁宿模型にある本陣	粕壁東 1-21-16 及び 18 遊技場と群馬銀行付近	位置推定
6	本陣 4 (高砂屋)	粕壁宿最後の本陣	粕壁東 3-4-21 (金子歯科医院)	明治 9 年明治天皇行在所、天保 2 年浄瑠璃芝居の染大夫一行が宿泊
7	道しるべ	江戸・日光・岩槻への道しるべ	粕壁東 2-1-43 東屋(田村商店)前	原位置は新町橋のもと
8	碓神社	船荷の積み降ろし場所でもあった	粕壁東 2-1	

9	東八幡神社	新宿組の鎮守さま	粕壁東 2-16	カ石、奉納物など江戸期のもの多し
10	三枚橋交差点	石 3 枚の橋だった	現文化会館前交差点	
11	東陽寺	松尾芭蕉宿泊伝承の寺	粕壁東 2-12-20	遺構・遺物はないが、芭蕉の記念碑が建つ
12	最勝院	3代将軍 徳川家光日光葬送の御旅所	粕壁 3-9-20	
13	山中観音堂	江戸文化の残照（俳諧師増田眠牛終焉のお堂）	粕壁 1-5-12	
14	日光道中	江戸・日光を結ぶ道。五街道の一つ	県道旭一一宮線（春日部大通り）	道幅 4～5 間
15	葉草園		西武百貨店・市立図書館・市民文化会館	大正 11 年～昭和 55 年

春日部市役所提供（一部改）

3年目となる今年度は、上記の目的を達成できるようなデジタルコンテンツを制作するため、上記表より 12「最勝院」を、また表以外から「芝屋・川越屋」、「埼玉りそな銀行付近」を錦絵や古写真、今日の様子を元に映像化を試みた。合わせて、前年度制作された「上喜蔵河岸」、「東陽寺」の映像を修正した。この 3 年間で、「新町橋」、「上喜蔵河岸」、「本陣（関根家）」、「本陣（高砂屋）」、「道しるべ（田村商店）」、「東陽寺」、「最勝院」、「芝屋・川越屋」、「埼玉りそな銀行」の 9 点が映像化され、それらコンテンツを一元的に見られるような工夫が求められた。その解決策として、江戸古地図をモチーフにした粕壁宿マップを制作し、地図上をクリックすると映像が再生されるコンテンツが制作された。

浮世絵や錦絵が人の心を掴んで放さないのは、その類いまれな対象物の記号化が大きな理由としてあげられる。形はもちろん、方角や距離を修正することでダイナミックなパノラマを展開してきたのだ。今日、かすかべ大通りから商店をみても、その背後の古利根川や筑波山を見ることは実際にはできないが、江戸の人たちは心で風景を愛でていたのだろう。映像制作において重要な点は、いかにかつての面影に現在の春日部を重ね合わせることができるかであった。具象とはいえ、絵画と写真を合わせるのは非常に困難がともなうものである。この 3 年間で制作された映像は、かつての粕壁宿の様子を思い起こさせるようなアニメーションになった。このように過去の技法で現代を描く手法自体はありふれたものであるが、過去と現在を効果につなぎ合わせる有効な手段である。

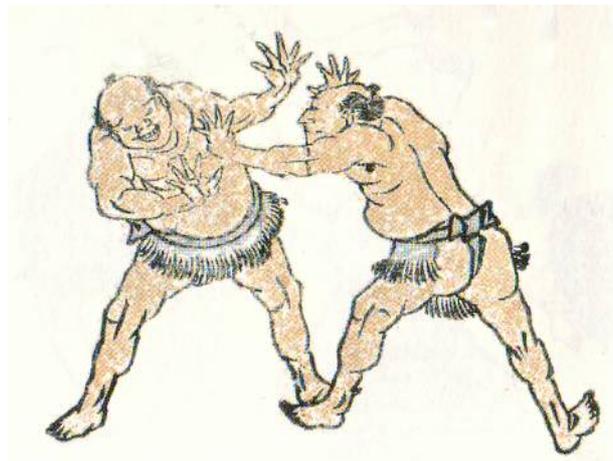
2. 制作内容

昨年度までと同じ手法で、江戸時代から現在までの粕壁宿の変遷が映像から想像できるように、江戸時代は、江戸のまちを描いた浮世絵などを参考にした錦絵風に描き、明治から昭和の年代は白黒写真、現在の様子はビデオで撮影し、それらを結びつけた映像を制作した。

制作された映像は以下の3点である。

(1) 最勝院

残念ながら、最勝院の古写真が見つからなかったため、江戸時代からいきなり現在の順に構成された映像となった。かつて、ここでは相撲が行われていた記録も残っており、桜吹雪の下で相撲を取る様子を錦絵におこした。



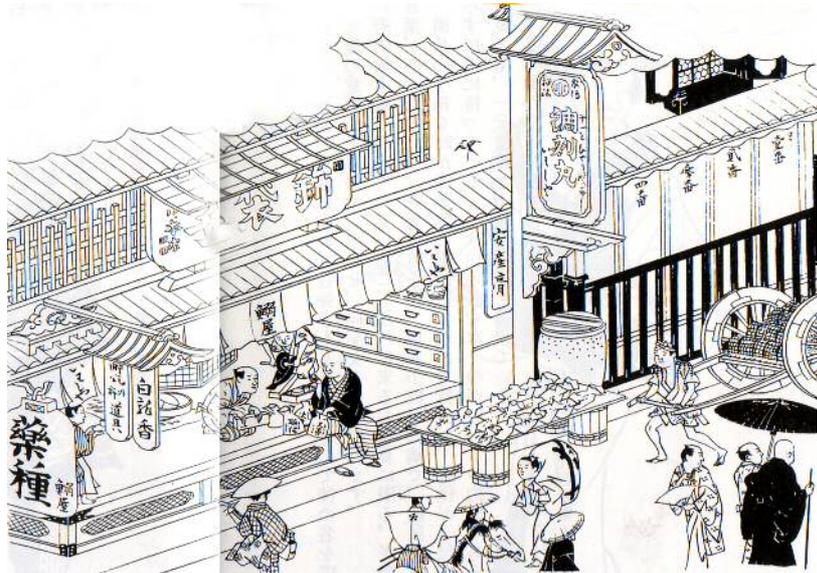
江戸時代の相撲（葛飾北斎画）



桜が舞う今日の最勝院

(2) 芝屋・川越屋

芝屋は、現在は呉服店であるが、江戸時代は薬種屋だったとされる。また川越屋の前身は明らかではないが、大正末期には現在と同じように製菓業を営んでいたことが、古写真からわかっている。ここでは、古地図を効果的に使いながら、江戸時代→昭和初期→現在と時間が経過する映像を制作した。業態を変えつつも、江戸時代から脈々と生業が同じ地で続いていることを知るのには、粕壁宿を歩く者が歴史を感じられる瞬間である。



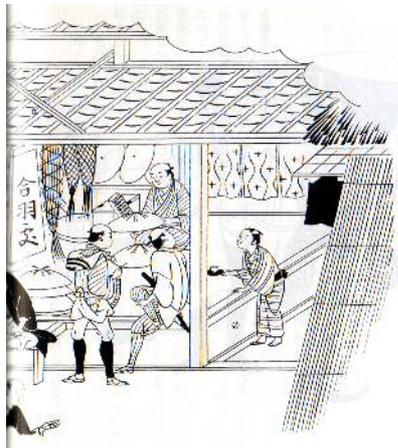
江戸時代の薬種屋『江戸名所図絵』（長谷川雪旦画）より



昭和初期の芝屋呉服店と向かいの川越屋製菓

(3) 埼玉りそな銀行

現在の埼玉りそな銀行の場所が、江戸時代にどのような用途で使われていたのかは定かではない。雨の日に日光へ向う旅人が買い求めた笠屋であったかもしれないし、今日の永島園の前身となる茶屋があったのかもしれない。そんな想像をかき立たせてくれる、ゲニウス・ロキ（土地柄）を感じさせる場所である。この映像は、江戸の活気のある街並から大正末期の古写真を間に挟み、現在の様子が映し出される。



左：笠屋『摂津名所図絵』より



右：茶屋『紀伊国名所図絵』より



大正 12 年のかすかべ大通り（中央右の建物が武州銀行）

3. ポータルサイトとしての春日部都市図

最終年度である今年、制作した映像コンテンツを効果的に見てもらうためのポータルサイトとなる地図を新たに制作した（下図参照）。この地図は、江戸時代（安政年間）に多くの町民に利用された「尾張屋」絵図をモチーフにして描かれた。当時の地図は版画であったので、多色刷りとはいえ使用されている色数は6色にとどまる。しかし、この色数の少なさが、江戸古地図を見たものに想像力をかき立たせるのであろう。現在、多くの古地図がそのままに復刻販売されているだけでなく、今日の地図と重ね合わせて時代の移り変りを楽しめるもの等、様々な形で今に蘇っている。「平成粕壁宿繪圖」と題されたこの地図は、江戸古地図の様式をそのままに、記載されている内容を今日のものに改めたものである。

この地図は web 上で公開され、映像コンテンツのカメラ位置にあたる場所をクリックすると、それぞれ9種類の映像が再生される仕組みになっている。このデジタルコンテンツは、春日部市ホームページからリンクされる予定で、春日部市民だけでなく、粕壁宿を訪れたいと考えている人たちも容易にアクセスできることになる。ただ単に地図として楽しんだり、実際に利用するだけでなく、映像コンテンツのポータルサイトとしての機能が付け加えられている。こうした工夫により、パーソナルコンピュータではもちろん、実際に街を歩きながらスマートフォンを使えば、屋外でもこのコンテンツを楽しめることが可能となったのである。



平成粕壁宿繪圖（制作：石原研究室）